



総題 私たちの神

アドベンチスト聴覚しょうがい者友の会教材部

第 4 課 恵みと裁きの神 浦島智加男 2012, 1, 21～2012, 1, 28

はじめに

神様は、様々なご性質（全知、全能、義、愛など）をお持ちですが、私たち人間が持っている罪をご覧になるとき、そのうちの「義」と「愛」という、相反するご性質がどのように表されるかを学びます。

神が統治しておられるこの宇宙に罪があると、それは破壊的（こわす）に働き、宇宙全体の安全が危機に瀕する（危なくなる）のです。でも、宇宙の一角を占めている地球に罪が入り込み、地球の住民は罪に染まっています。神は、一刻も早くこの罪を取り除き宇宙の安全と平和を取り戻したく思っておられます。神様の「義」は、この罪を滅ぼす方向にのぞみます。これを「裁き」といいます。罪に染まっている人間は、裁きを受け、ひとり残らず滅んで行くしかありません。

しかし、一方神は愛で愛られます。罪は滅ぼしたいが、罪人になった人類は滅ぼしたくないのです。神様の胸の中で、義と愛がぶつかり、苦しまれたことでしょう。でも、罪は滅ぼし、罪人は滅ぼさない方法を用意されました。これがキリストの十字架という手段です。これによって罪人が救われるのです。これを「恵み」と言います。

1. 裁きの日 1月22日（日曜日）

罪は必ず滅ぼさなければならないのですが、神様は、忍耐づよい方です。なぜ、罪が災いなのか、滅ぼす必要があるのかを、十分に説明された上で、時間をかけて裁きを実行なさるのです。初めに天で、神の前でルシファーが神に反逆し、罪を犯した時に、神様は石ころを投げるように、ルシファーと罪を犯した天使たちを、いとも簡単に滅ぼされることもおできになりました。神の前からは追放されましたが、今も悪天使たちは、生き残っています。罪を犯した人類も長い間生き続けています。

それは、罪が説明するのが難しい神秘的な性質を持っているからです。罪の性質が形に現れそれがどんなに恐ろしいものか、破壊的なものかを宇宙に存在する者たちが、理解するまで時を延ばして待っておられます。

しかし、それが十分に理解されたと判断されたとき、裁きを断行（実行）される時が必ず来ます。神のみ心の中で決めておられます。それが「裁きの日」なのです。

2. エデンにおける裁きと恵み 1月23日（月曜日）

あれほど、平和で幸福であったエデンの園の住民に、サタンが忍び込み、彼らを罪に巻き込んでから、アダムとエバの関係が陰しいものに変化し、あれほど慕わしかった神様が恐ろしい存在に変わりました。神様は、彼らに罪には刑罰が伴い、罪の結果は苦痛に満ち、最後には死という運命があることを言い渡されました。これが彼らに対する裁きの宣告（言いわたし）です。

しかし、恐怖におののく彼らに、罪を告白し、悔い改めるなら救われる道があることを創世記3章15節で、救い主がおいでになって、罪の張本人であるサタンが滅ぼされ、罪そのものが無くなる時が来ることを約束されました。これが、めぐみの宣告です。

3. ノアの洪水 1月24日（火曜日）

エデンの園で、恵みが宣告されたのに、それを受け入れて神を礼拝する人と、それを拒む人と2種類に人類が分かれました。「生めよ、増えよ」という神の祝福の言葉も、恵みを拒む人々によって、罪が増えて行くばかりの結果を招きました。世の中全体が罪一色になりました。

しかし、ほんの一握りのノアとその家族が、神を礼拝し、救いを待ち望んでいました。神様は、一度この罪の世界を滅ぼして、神を礼拝する世界を取り戻したかったのです。そこで、洪水を起し、神に反逆する人を一掃されました。これが裁きです。

創世記6：8「しかし、ノアは好意を得た」とあります。好意とは「恵み」という意味です。神が人々を救おうとして、手を差し伸べて全身を傾けておられる姿を表す言葉です。しかし、多くの人々は、ネフィリム（創世記6：4）に目を奪われ、その恵みが見えませんでした。それを「得た（発見した）」つまり、神様が人類を救おうとしている姿を発見したのは、ノアだけでした。

ノアとその家族に箱船をつくらせ、ほかの生物も救う手立てをされ、洪水後の新世界が始まりました。

4. 断罪と恵み 1月25日（水曜日）

ヨハネ3章16、17節は、ここだけで「小聖書」と呼ばれています。つまり、この聖句の中に、聖書が言いたいことが、全部集約（まとめてある）されているということでしょう。

人類全体は、罪を犯したので、神の断罪（裁き）を受け、滅びるはずだったのに、愛の神は、そのひとり子（キリスト）をこの世に送り、人間の罪を全部引き受け、十字架で人類にかかわって、神ご自身が罪の罰をお受けになる、という不思議な愛の表現（恵み）なのです。この聖句の中に福音がぎっしり込められています。

5. 神の裁きの時 1月26日（木曜日）

一つの社会が、成り立つためには、ルールが必要です。人間のどの社会でもルール（法律）があります。色々なルールの基本になっているのが、正義です。ルールを破ったら必ず「罰」を課する、これが正義です。このルールをしっかりと守るように、社会が乱れないように見守っているのが警察官、裁判所などの司法です。法律違反の罰は、罰金もあれば、刑務所などで拘束（自由に行動できなくされる）されたり、罰が重いと死を宣告されることもあります。しかし、この世の法律違反は、それが見つかれば、証拠がはっきりした時だけで、多くは見逃されています。

中国の古い言葉の中に「天網は恢恢にして、しかも漏らさず」というのがあります。神様が人類に与えられた法律はたった十しかありません、十戒です。網に例えれば、粗い網です。恢恢という言葉は「粗い網」という意味ですが、粗い網は、小さな魚はくぐり抜けられます。つまり、人間の社会の法律は何十万もあり、法の番人も沢山いるけれども、罪が見逃されたり、抜け道があつたりしますが、聖書は、神様の目はどんな小さな罪も見逃されないし、罪は必ず断罪される、しかもその日は決められており、必ず実行されると言っているのです。